

令和4年度 マレーシア 販売促進事業 日本ブドウ産地協議会

下記のとおり実施結果をご報告します。

対象国	マレーシア
実施期間	10日間 2022（令和4）年12月16日（金）～12月26日（月）
実施場所	クアラルンプール市内 3店舗にて実施 展示販売3店舗、プロモーター試食2店舗
実施者	日本青果物輸出協会

今回の販売促進活動は、韓国等から出荷が減少する冬季において、2か月間冷蔵したシャインマスカットの販売を中心に行った。

冷蔵ブドウでは、貯蔵コストもかさむことから195.80マレーシアリングgit（約5900円）の価格で販売を行った。日本産高級果実を多く扱う専門店や伊勢丹では、感心をもつお客様も多く、問題なく販売できるものの、中上級スーパーでの販売は厳しい傾向であった。その理由としては、中上級スーパーには、当初の予想に反し、12月になっても廉価で比較的品質の良い中国・韓国産が継続的に販売されていたことから、現地プロモーターによると、そうした影響を受けているとのことであった。こうしたことから、今後春節などを狙った販売戦略が必要かと思われるが、これまでの貯蔵経験から、3か月貯蔵ではブドウに痛みが発生する懸念もあることから、さらなる貯蔵技術の向上が望まれる。

一方、店舗の要望を受けて調達した日本産のイチゴに関しては、品質、甘さ等日本品質が浸透しており、消費者の関心も高く、比較的順調に販売を進めることができた。

その他、日本産野菜については、マレーシアの若年層は家庭で調理をする習慣が乏しいため、野菜単体での販売促進ではなく、食べ方、調理方法の普及などにも注力し、販売促進活動を展開する必要性を感じたところである。

